

Dance ダンス Dance ダンス Dance ダンス

布村幸彦会長就任ご挨拶

ダンススポーツグランプリ in 京都2022

全日本選手権10ダンス・シニアII選手権 2022



<http://www.jdsf.or.jp>



公益社団法人
日本ダンススポーツ連盟
Japan DanceSport Federation

ご挨拶



公益社団法人 日本ダンススポーツ連盟
会長 布村 幸彦

ダンススポーツを楽しんでいらっしゃる会員の皆様、2022年3月に中井眞一郎前会長からバトンを受け、JDSF代表理事・会長に就任させていただきました。齊藤斗志二元会長、中井前会長のお二人はともに二十年の長きにわたりJDSFの発展に御尽力をいただきました。公益社団法人化やJOC・JSPOへの加盟をはじめガバナンスの強化、また国民スポーツ大会正式種目化、ブレイキンのパリ五輪種目採択などなど大きな足跡を残していただきました。改めて厚く御礼申し上げます。今後、市原副会長、山田専務理事、金子常務理事をはじめJDSFの皆さんと一体となって持続可能な組織へと更なる発展に向け、着実にステップを踏んで参りたいと思います。

ここでウクライナへの軍事侵攻で被災された方々、離れ離れになっておられるご家族の気持ちに寄り添い、亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。悲惨な軍事侵攻が一日も早く終結することを願いつつ、JDSFではウクライナのダンス界を支援するための募金を行っておりますので、皆様のご支援をお願いさせていただきます。

さて、『ダンス ダンス ダンス』というテンポの良い誌名に乘せられて簡単に自己紹介させていただきます。ダンスに関しては学生時代のダンスパーティでジルバやスクエアダンス(?)を踊った経験がある程度ですが、部活動のバスケットボール、草野球をはじめ幅広くスポーツを「する楽しみ」を味わってきました。また、「見る楽しみ」もオリンピック・パラリンピックの全競技はもとより、ラグビーやサッカーのW杯(なでしこジャパンの2011優勝も)、バスケットリーグ、weリーグ、プロ野球など幅広く楽しんで来ており、東アジア競技大会でのダンス競技も見ることがありました。

そして、文部科学省の体育局・スポーツ青少年局や東京2020大会組織委員会でスポーツを「支える楽しみ」も多くの同僚やボランティアの方々と味わうことが出来ました。スポーツ局時代は、スポーツ基本法の制定、東日本大震災や阪神淡路大震災の復興支援、大相撲八百長問題などに携わることが出来ました。

組織委員会では「スポーツには世界と未来を変える力がある」というビジョンを掲げ、東京での2020年のスポー

ツの祭典にとどまらない、地域的、分野的にも時間軸としても大きな広がりを持つ大会にしよう! とスタートしました。しかし、2020年 聖火が到着して以降、先の見通せないコロナ感染症のまん延の中、大会は一年の延期、そして簡素化を図り、かつ万全のコロナ対策を行った中での大会となりました。

振り返ってみると、無事に全競技日程を行い、国際的な約束を果たすことが出来、世界のアスリートや国民の皆様から“開催してよかった”、“日本だから出来た”の声をいただき関係者皆一安心しているところです。心残りは、無観客とせざるを得ず、日本の子どもたちに競技、とりわけパラリンピック競技を会場で生で見ってもらうことがほとんど出来なかったことです。1964年 富山でテレビ観戦して、競技から感動を、閉会式からこれが国際親善ということか、という実感ももらった世代の一人として、次の世代にオリンピック・パラリンピックの感動や力をつなげなかったことが残念です。

組織委員会は本年6月末をもって解散しました。8年半の長い旅路を思い起こして、得がたい機会、五輪パラに携わることが出来て幸せだったとしみじみ感じています。そのような中、JDSF会長として引き続きスポーツに携わることとなり、嬉しく思っています。ダンススポーツ競技も先の見通せないコロナ禍の中、皆様のご努力で乗り越えていただき、大会の開催や組織運営にもようやく明るい兆しが見えつつあるようです。

国民スポーツ大会の正式種目化の実現、パリ五輪ブレイキンでの日本の若者の大活躍、そこを契機としての若年齢層への普及拡大、それを学校体育で必修化されたダンス種目が下支えするような流れが実現すること、中高年世代でのダンスを通じたスポーツを「する」「見る」楽しみ、それが健康長寿につながっていく流れなど、皆さんと取り組んでいきたいことが沢山あります。トップアスリートの活躍、彼らの引退後、地域スポーツクラブでの指導がダンススポーツの更なる発展につながり、次世代のアスリートが育つ、そんな好循環を実現して、ダンススポーツ文化が日本の中で広がっていくよう、手を取り合ってステップを踏んでいきましょう。

2022年度定例理事会

6月5日(日)、有明のDTCを拠点にリアルとオンラインを融合したハイブリッド会議で、14名の理事、2名の監事が出席し、14時から開催されました。



有明会議室を拠点に開催

布村幸彦会長の司会進行で、2021年度の事業及び決算報告、2022年度補正予算、総会議案等、第1号議案から第11号議案まで審議され全て承認されました。第6号議案では、金子和裕事務局長より本年5月末での辞任表明により、岸尾政弘事務局長補佐の新事務局長就任が決まりました。

その他報告事項として、有明事務所への移転とDTC運営に関する状況報告、ウクライナ支援募金活動の報告があり、主要競技会等の日程の説明がありました。

全国代表者・正会員会議

6月18日(土)、13時からオンラインで開催されました。スポーツ団体がガバナンスコードについて、2023年度は4年に一度実施される適合性審査があり、JDSFが策定しているガバナンスコードの適合状況の報告と、加盟団体に課せられている遵守事項等について説明。Afterコロナの世界とJDSFのあり方については、コロナから学んだ「デジタルコミュニティの形成」をさらに膨らませ、マスメディアとSNSを駆使し日常生活でダンスが話題になるような行動目標、新たなダンスファン獲得のためのダンススポーツのブランディングの必要性等を提示。また、ダンススポーツの国体参加イメージや県連におけるブレイキン会員の位置づけなど説明がありました。

デジタルコミュニティ推進部からは、JDSF公式Twitterの投稿方法をYouTubeの動画と併せて説明。JDSF会員専用の物販サイトの取り組みについては、「ダンス関連商品を扱う会社」「JDSFの理念に賛同できる会社」「ITリテラシーのある会社」の紹介協力を参加者へ呼びかけました。デジタル会員証等について、2023年4月よりデジタル会員証へ完全移行するため、所属団体のイベントやサークル活動等でオンライン会員登録の促進を要請。また、総合情報、競技会申請システムの更改についても報告されました。

ブレイキンの状況とパリオリンピックについては、2028年の長野国体に向けて47都道府県のブレイキン担当者の設置状況、派遣の為に選手選考、資金調達など、今後の県連との活動について発表。さらには2024パリオリンピックの参加選手数、選考方法とロードマップの説明がありました。



パリオリンピック会場の紹介

グループセッションでは、11のグループに分かれて、県連にとって最も重要な課題、国体公開競技成功のための課題について討議されました。

2022年度定時社員総会

6月26日(日)、有明のDTCを拠点にリアルとオンラインを融合したハイブリッド会議で、14時から開催されました。布村幸彦会長ご不在の中、冒頭、市原則之副会長よりここ数年のコロナ禍と、そのための自粛による日本の活力の低下、そして東京オリンピック以降の世情やスポーツの価値の変化等についても触れ、さらなるダンススポーツの振興に向けてご挨拶がありました。

定足数の確認、議長選出、議事録署名人指名に続き、下記の議案の審議が行われました。

第1号議案 2021年度事業報告及び決算の件

第2号議案 定款変更の件

第3号議案 2023年度正会員選挙に関する選挙管理委員長等の指名の件

すべて賛成多数で可決されました。

その他、山田専務理事、岸尾事務局長等から下記の報告がありました。

- (1) 有明事務所への移転とDTC運営に関する状況報告
- (2) 国民スポーツ大会第4期実施競技選定(第82回~第85回大会)に係る中央競技団体(NF)書面調査書の提出
- (3) 2022年度補正予算
- (4) ウクライナ募金

また、齊藤斗志二名誉会長が会場に参加され、「新たに布村会長を迎えての新しいスタートとなり、長年の課題が少しずつ解決していることに心から感謝いたします。長い間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。」とご挨拶がありました。



山田専務理事



齊藤斗志二名誉会長

事務所移転のお知らせ

当連盟事務所は、7月11日(月)より下記に移転いたしました。

【新住所】〒135-0063 東京都江東区有明 3-4-2 有明センタービル1階尚、電話番号及びFAX番号の変更はございません。

〈交通のご案内〉

- りんかい線 国際展示場駅から徒歩5分
- ゆりかもめ 東京ビッグサイト駅から徒歩3分



全日本選手権10ダンス・シニアII選手権 2022



愛知県ダンススポーツ連盟会長
大会副実行委員長
佐合 孝史

6月5日(日) / 名古屋市稲永スポーツセンター

コロナ禍も昨年と比べ納まりかけている中、今年は多くの皆様に10ダンスの素晴らしさを感じて頂こうと有観客での開催となりました。準備から終了まで役員はじめ多くの関係者にご尽力賜りました。感謝申し上げます。大会当日は、昨年に続き大村秀章愛知県知事はじめ神戸洋美愛知県議会議員、山田昌弘名古屋市議会議員等のご来賓にご臨席賜りました。大村知事には10ダンスの決勝までご臨席賜り、とても貴重な大会になりました。

また、参議院議員斎藤嘉隆先生からは祝電を頂戴し、改めまして本大会が、世界選手権代表選考会としてとても意義のある大会であると感じた次第です。

優勝された大西組におかれましては、今年の9月3日、スロバキアで行われる世界選手権での活躍に期待いたします。



大村秀章愛知県知事



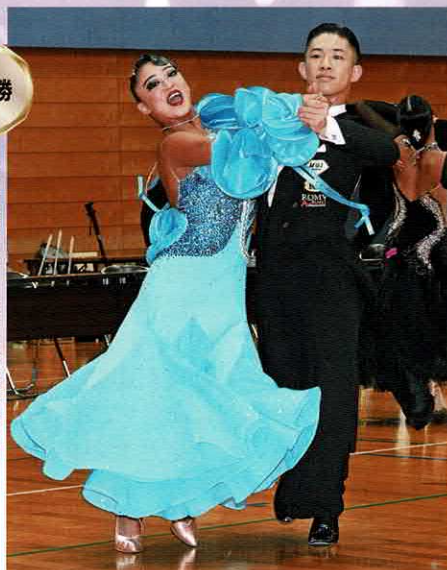
鈴木康介実行委員長
(中部ブロック長)

全日本選手権10ダンス



優勝

大西大晶・大西咲菜組
(富山県)



準優勝



Tudor Andrei・吉川あみ組 (東京都)



第3位

太田歩生・松本京佳組 (北海道)



第4位

小島獅桐・馬場梨紗子組
(群馬県)



第5位

中村エドワード漸・中村エリザベス永理組
(Jr. アスリートクラブ)



第6位

滝川貴之・滝川綾乃組
(愛知県)



優勝

シニアII選手権 スタンダード&ラテン

馬潤亮一・馬潤邦美組 (福井県)



スタンダード表彰式



ラテン表彰式

第11回ワールドゲームズ 日本代表記者発表&壮行会(結団式)開催

2022年6月21日(火) / Japan Sport Olympic Square14階大ホール

もうひとつのスポーツの祭典、第2のオリンピックとも呼ばれるオリンピックに採用されていない競技種目の国際総合競技大会“WORLD GAMES”は世界各国から最高水準のアスリートが競い合う国際的な競技大会です。

国際ワールドゲームズ協会 (IWGA) が主催、国際オリンピック委員会 (IOC) の後援により4年に一度、夏季オリンピック・パラリンピックの翌年に開催されています。第11回ワールドゲームズは、7月7日から17日までの11日間、アメリカ合衆国・バーミングハム市で開催されます。1981年にサンタクララ市で第1回大会が開催されて以来、約40年ぶりのアメリカ開催となります。公式30競技・公開5競技に、約100の国・地域から3,500名のトップアスリートが223個の金メダルを目指します。日本からは、21競技に過去最高そしてアジア最高の138名が派遣され、監督等を含めると約200名の大選手団となります。



記者会見の様相



壇上でインタビューを受ける
大西大晶・大西咲菜組

ダンススポーツ競技日本代表	
監督 渡邊 将弘	
ダンススポーツスタンダード	
大西 大晶・大西 咲菜組 (富山県)	
ダンススポーツブレیکن	
半井 重幸 (大阪府)	俣野 斗亜 (京都府)
福島あゆみ (京都府)	湯浅 亜実 (埼玉県)



赤木恭平日本ワールドゲームズ協会(JWGA)会長



師岡文男JWGA理事
(上智大学名誉教授)



室伏広治
スポーツ庁長官



山下泰裕
JOC会長



駐日米国大使館首席公使
のレイモンド・グリーン氏

記者発表

師岡文男日本ワールドゲームズ協会 (JWGA) 理事 (上智大学名誉教授) からマルチスポーツの祭典として、大会の概要について解説がありました。今大会はロシアのウクライナ侵攻により、ロシアとベラルーシは参加禁止とされています。

師岡理事は、2001年秋田県で開催された第6回ワールドゲームズのダンススポーツ競技の開催にあたり来日の世界ダンススポーツ連盟ルーカス・ヒンダー世界ダンススポーツ連盟 (WDSF) 前会長 (現名誉会長) と共に力を尽くされました。

日本代表選手壮行会 (結団式)

赤木恭平JWGA会長が多くのマスコミ、選手にお集まり頂いた御礼を述べた後、室伏広治スポーツ庁長官は「広いスポーツ振興の大会。心身ともにベストの体調で臨み国際交流を深める絶好の機会です。日本を代表する選手として頑張ってください」と選手を激励。駐日米国大使館首席公使のレイモンド・グリーン氏は、流暢な日本語で「米国での開催を誇りに思う。2020東京オリパラピックのおもてなしを体験したが、今回はアメリカがおもてなしをする機会です。人の絆を深める絶好の機会となることを願っています」と挨拶。続いて山下泰裕JOC会長は「コロナ禍で1年延期となったが、40年ぶりのアメリカ開催。選手は誇りを胸に、夢や目標に向けて思い切り挑

戦しイキイキと輝いて欲しい。競技を通して他国選手との相互理解と国際親善を深めて欲しい」と挨拶されました。

後半は、選手から大会に向けての抱負や関係者による競技の見どころなどの紹介があり、5番目に登場したダンススポーツは、パワーとスピードと繊細なフットワークが楽しめる華やかな競技。そして兄妹のカップルと司会者から紹介され、壇上に上がった大西大晶・大西咲菜組は「ダンスは6歳と3歳から始めた。はじめは僕がリードしていたが、今はほとんど僕がされています(笑)。喧嘩はよくしますが3秒後には仲直りなので、周りからは不思議がられています。ダンススポーツの魅力は、どのような曲が掛かるか判らないなかで曲に合わせ二人でどう表現するのか、そして个性的で華やかな衣装も見て欲しい!」と話しました。

渡邊一利日本選手団団長 (JWGA 副会長、笹川スポーツ財団 理事長) からはビデオメッセージで「各競技のトップアスリートとして、ベストの状態で開催してください」と挨拶。最後に本一将選手(空手道)と田中希実選手(ラクロス)による力強い選手宣誓があり、最後に記念撮影で壮行会は終了しました。



渡邊一利日本選手団団長
(JWGA副会長) からは
ビデオメッセージ



本一将選手(空手道)と田中希実選手(ラクロス)による力強い選手宣誓



大西組と神宮周二JDSF広報部相談役



記念撮影

全日本10ダンス2連覇!

大西大晶・大西咲菜組



2021年三笠宮杯スタンダード初優勝
(2020年同ラテン初優勝)

ひろあき さきな
大西大晶・大西咲菜組は、今年6月5日、名古屋市で開催された全日本選手権10ダンス選手権で輝く2連覇を達成。昨年11月の三笠宮杯ではスタンダードにおいて念願の初優勝、ラテンも準優勝を飾るなど、富山県で生まれ日本を代表する選手に成長、世界選手権日本代表として大活躍中の現在23歳と20歳の兄妹のカップルです。7月にアメリカで開催される第2のオリンピックとも言われる“第11回 WORLD GAMES”（主催：国際ワールドゲームズ協会）に出場、世界に羽ばたく日本代表として今後益々の活躍が期待されています。



(JDSF広報部相談役 神宮周二)

Q 全日本10ダンス優勝おめでとうございます!

A 2連覇することができ、とても嬉しく思います。昨年は無観客でしたが、今年は有観客で、名古屋にいるおじいちゃんおばあちゃんにも踊りを見せることができてとても嬉しかったです。次は世界に向けてさらにレベルアップしていきます。

Q 現在のプロフィールを教えてください。

A 大晶は23歳、今年3月に東洋大学を卒業。咲菜は20歳、現在東洋学園大3年です。大学では部活には所属せず、ダンスに専念しています。

Q 咲菜さんは、大学広報誌TOGAKU PRESSの表紙にもなりましたね。

A みんな優しく、いろんな結果を報告すると喜んでくれます! 先月には横断幕まで作っていただきました。大学の授業も遠征で休むこともありますが、なんとか3年生になることができました。後1年とちょっとなので、勉強とダンスの両立に頑張ります。



Q ご家族5人はダンスご一家とか。紹介していただけますか?

A 両親は学連時代から夏全、冬全と言われる全日本戦で優勝。全日本10ダンスチャンピオンも経験しています。だから、両親の後に続けてとても嬉しいです。妹の陽来里(ひらり)15歳)は現在ジュニア強化選手としても活躍しているので、とても期待しています!!



Q ダンスを始めたきっかけは?

A 富山で幼稚園の友達と一緒に両親のサークルで始め、最初は遊び感覚で楽しく踊っていて私は3歳でお兄ちゃんが6歳。コンペでも、お兄ちゃんがしっかり引っ張ってくれていました。



2009年DDD53号
キラ星コーナーに登場
(10歳と7歳)

Q ジュニア時代の思い出は?

A 2013年富山県功労表彰を受賞、咲菜は12歳で最年少受賞記録です。その他にも富山県体育協会特別表彰、元気とやまスポーツ大賞等も頂きました。そして第31回笠宮杯JOCジュニアオリンピックカップスタンダードでは3連覇達成。2011年~13年、JOC認定のオリンピック有望選手にも3回選ばれました。私たちの世代はライバルが多く、勝ったり負けたりの中で切磋琢磨。また、オリンピック有望選手に選んでいただき、合宿などに参加し沢山の交流ができたのも、とても良い思い出です。



富山県功労表彰



ゼミ指導教員の下山幸成教授と咲菜さん

Q 日本だけではなく世界もコロナで大変ですが、海外の競技会は？

A 中国で野宿を経験したことです。2019年、アジア選手権in西済に出場したとき。私たちは前日大阪にデモに呼んで頂き関西国際空港からそのまま中国へ向かいました。南京からの飛行機が欠航、ゴールデンウィークも重なり別便の空席もなく振替も出来ません。しかし「日本代表として絶対に出場を諦めるわけにはいかない」と必死にいろんな人に聞き、両親や選手強化部とも連絡を取りながら飛行機がダメなら電車も調べましたが満席。チケット売場での交渉にも時間が掛かり、ついに深夜、チケットが買えない時間になりました。大会のオーガナイザーに明日の開始時間等を確認したのですが、情報を得ることが出来ません。LINEが通じない中国で他の日本選手とも連絡が出来ない中、香港の選手からWhatsAppで試合開始は明日の午後からとの情報を得て、駅の外で野宿しました。翌朝4時に電車のチケット売場に並び、乗換えて行ける空席がありギリギリ間に合うと思い、オーガナイザーに連絡して到着駅での迎えを頼み、出番の30分前に会場に到着！即、着替えて出場。髪の毛は前日のデモの髪型のまま、化粧は電車の中で揺れながら頑張っていました。寝ていなかった私たちの体は限界でしたが、全てを出し切りコンペに挑みました。終了後、開始時間の情報を連絡してくれた香港やベトナムの選手と食事に行きました。大会ではライバルですが、困ったときは助けてくれる選手たちと過ごす時間も大切な時間となりました。

2回目のハプニングは2018年、香港のアジアシングルダンスに出場するとき。強烈な台風が近づいて大会もあやぶまれた中でタイムテーブルを早め何とか開催されましたが、帰りの飛行機が全て欠航になり、ホテルで数日間の待機となり滞在費もない中、香港の選手が自宅に泊めてくれました。

週末には日本でグランプリ戦が控えていましたので、練習場に連れていってくれたり食事に誘ってくれたり、快く世話をしてくれました。ハプニングが海外選手との交流を深めてくれるとても良い機会となりました。海外遠征ではハプニングの度に沢山の方に助けて頂き、ここまでダンスを続けてこられました。

Q 目標とする選手は？

A スタンダードは元世界チャンピオンのベネデット・クラウディア組(ドイツ)、ラテンは同じく世界チャンピオンのガブリエル・アンナ組(モルドバ)。それを超える踊りをしたいと思っています。ライバルは、自分自身だと思っているので自分に勝つこと目標にしています。

Q 今後の目標は？

A 世界選手権ファイナルに入ることが目標です。ブレیکنがパリオリンピック種目、その次の五輪ではスタンダード、ラテンも正式種目に！我々もメダル目指して頑張りたい。将来はJDSFを盛り上げて行くためにも僕たち自身が専務理事等になり、業界を引っ張っていきたくと思っています！

Q ダンス界を盛り上げるための活動を教えてください。

A 今年2月に新設された(株)ソーシャルヘッジホッグ(社長：棚橋健)に所属しました。より多くの方にダンスの魅力を知っていただけるような活動をしていき、ダンス界全体を盛り上げていきたい。10年後には、ダンスの面白さを沢山の人に伝える番組をやりたい。TVだったりYouTubeだったり、媒体は判りませんがダンスの魅力を深掘りして、それを伝えるようなことに携わりたいです。

第11回ワールドゲームズ大会



Japan DanceSport Federation

The World Games
2022 BIRMINGHAM, USA

7月8日～10日にダンススポーツ競技は開催され、注目のパリオリンピック新種目ブレیکنは、女子(B-Girls)は湯浅亜実選手が圧倒的な強さで金メダル。福島あゆみ選手は銅メダル。男子(B-Boys)半井重幸選手も銅メダルを獲得。俣野斗亜選手は第15位。

スタンダードに出場の大西組は第18位と健闘しました。優勝はリトアニアのソデイカ組、ラテンはモルドバのガブリエル組でした。

アメリカ合衆国・バーミングハム市に
3,443人のトップアスリートが集結、
7月7日から17日まで開催されました。



左から福島あゆみ、俣野斗亜、半井重幸、湯浅亜実

第46回全東北学生競技ダンスラテン4種目戦 並びに第49回スタンダード4種目戦

2022年6月5日(日) / 山形市福祉体育館

連盟創立50周年記念誌

全東北学生競技ダンス連盟
50周年記念誌

全東北学生競技ダンス連盟

1970年(昭和45年)11月東北地方の5大学(弘前、岩手、山形、東北、宮城教育)が盛岡に集合「全東北学生舞踏交歓会」を開催、翌1971年2月岩手大学構内において「全東北学生舞踏連盟」を設立。2016年秋田大学が加わり現在の東北6県6大学(弘前、秋田、岩手、東北、山形、福島)体制となり「全東北学生競技ダンス連盟創立50周年」を迎えるまでに発展しました。記念式典はコロナ禍により開催できませんでしたが、東北大学梅沢里玖部員等の尽力により、2021年末に連盟創立50周年記念誌も作成されました。(基本的に5年に一度、記念誌を作成、継続中)

創立後は、宮城教育大学の離脱、弘前大や岩手大のあわや消滅の危機、山形大の消滅と復活、福島大や秋田大の新規加盟、など紆余曲折の50年でした。



選手宣誓 寺澤宏太・小倉由愛組(山形大学)



オレクシーグザー・太田吏圭子組による講義&模範演技



福山博之全東北学生競技ダンス連盟会長挨拶
篠田雅子審判長講評



審判員と連盟役員 各大学主将カップルの記念撮影

左から二瓶実行委員長、その隣若月連盟理事長(岩手大学)、右端盛野山形大学主将



神宮周二全東北学生競技ダンス連盟副会長と
オレクシー・太田組

審判員

篠田雅子(JCF)
八重樫仁文(JBDF)

オレクシーグザー(JDSF-PD)
神宮周二(JDSF-GD)

太田吏圭子(JDSF-PD)



二瓶京香実行委員長(山形大学競技舞踏部)

「コロナ禍により3年ぶりの開催。新たな試みウクライナ支援の募金企画は、皆様のご協力により21万3千円という額が集まりました。この募金は審査員を務めてくださったオレクシー・太田組にお渡しし、少しでもお役に立てばと思います。ウクライナ支援、大会運営ともに多くの方々の協力なしでは開催できませんでした。心より感謝申し上げます。この経験を後輩に引き継ぎ、今後の東北のダンス界が盛り上がることを期待しています」

団体戦スタンダード



第4位

石田 健・田中瑞穂 組
(秋田大学)



第3位

井上大輝・岡部杏海 組
(山形大学)



準優勝

石川怜旺・後藤朱音 組
(山形大学)



優勝

山本哲聖・星野佳乃葉 組
(東北大学)
団体戦ヴェニースワルツ優勝



第6位

鈴木駿輔・茂野優奈 組
(弘前大学)



第5位

古澤陽生・齋藤 恵 組
(岩手大学)

団体戦ラテン



優勝

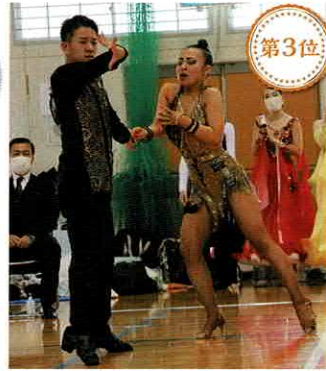
若月 駿・鳥 遥 組
(岩手大学)
団体戦ジャイブ優勝



準優勝

佐伯俊輔・佐藤由唯 組
(山形大学)

盛野正也・大坂あゆみ 組
(山形大学)



第3位

大沼直樹・平井まなみ 組
(弘前大学)



第4位

岡田虎太郎・伊里明日香 組
(弘前大学)



第5位



第6位

佐藤聖悟・大岡里萌 組
(福島大学)

優勝

岩手大学



団体成績

- 優勝 岩手大学
- 準優勝 弘前大学
- 第3位 東北大学
- 第4位 山形大学
- 第5位 福島大学
- 第6位 秋田大学

ダンススポーツグランプリ in 京都2022

2022年4月17日(日) / 西宇治体育館

西部ブロックのグランプリは2015年から昨年(2020年は中止)までは、大阪府池田市の閑静な山の中の温泉地「不死王閣グリーンホール」で開催されていましたが、今大会は京都における初のグランプリ開催となりました。JDSF(公益社団法人日本ダンススポーツ連盟)は、



伊藤康雅
チェアパーソン

JOC(日本オリンピック協会)、J-SPO(日本スポーツ協会:旧日体協)、日本ワールドゲームズ協会等の日本を代表するスポーツ組織の正式加盟競技団体であり、今後も競技ダンスの統括団体として大きく変化する

スポーツ界の中にあり、2024パリオリンピック正式種目ブレیکن(ブレイクダンス)などの新しいジャンルも含めて希望に満ちた普及発展が期待されています。

開催にあたり、谷口主嘉大会実行委員長(京都府DS連盟会長、西部ブロック長)は「各府県DS連盟やPD西部ブロックのご協力を得て開催にこぎ着けました。お陰様で指定席は全て完売。まだまだコロナの影響はありますが、トップ選手が集まるグランプリ戦を目で、肌で、直接感じていただき、声援の代わりに大きな拍手をお願いしています。運営関係者一同、万全を期して開催します」と話されました。



藤井創太・中村安里組(千葉県)

23歳と19歳の若き全日本チャンピオン。共に千葉県のダンススタジオみやおかで育ち、昨年6月に新カップルを結成、11月の三笠宮杯で涙の優勝。現在ダンス界注目のカップルです。

「今年初めてのJDSFの競技会ですが、優勝できました。ありがとうございます。競技会に出るたびに課題が見つかるのでさらにレベルアップして、これから海外の競技会にも出場し世界で活躍したいです!」



大西大晶・大西咲菜組(富山県) **準優勝**



五月女光政・五月女淑佳組(栃木県) **第3位**



高橋海・鈴木柚葉組(ブルボンDST) **第4位**



海老原拳人・タカギルナ組(千葉県) **第5位**



若さほじげるグランプリ戦ファイナル選手



海老原竜太・須田美咲組(千葉県) **第6位**

PDグランプリカップ スタダード



オレクシー グザー・太田吏圭子組(リズムメディア) **優勝**

ジュニアの時代からダンススポーツ競技を常にリードしてきた石原正幸・蘭羅組は欠場となり、オレクシー・太田組が全ジャッジから5種目オール1位で完勝、山本武志組が3種目で2位を獲得し準優勝、久保田・徳野組は惜しくも第3位となりました。



山本武志・木嶋友美組(LIBERA DANCE) **準優勝**



久保田弓椰・徳野夏海組(Team YUMIYA 北海道) **第3位**



山崎圭太・石本美奈子組(エムズダンスアカデミー) **第4位**



喜多田芳起・細田千代組(ザ・ゴールデンパレス大阪) **第5位**



高橋一昌・高橋由紀子組(幸手K&Yダンスクラブ) **第6位**

—— ウクライナ支援金贈呈式 ——

PDの競技終了後に谷口実行委員長からオレクシー選手に、ウクライナ支援金の贈呈式が行われました。「まずは、優勝できて嬉しい!! ウクライナの情勢はすごく変わった。毎日キーウ(キエフ)の家族に電話しています。今大会はエントリーはしたものの家族が気がかりで、良い踊りが出来ないのではないかと心配でした。オレクシーの母親が「笑顔で! がんばれ!!」と言ってくれたので「じゃあ! 笑顔で頑張ろう!!」という気持ちに二人で切り替えることができた。支援金そしてTシャツの売上協力は大変ありがたいです。ウクライナのダンススポーツの仲間、ジュニアの支援に役立てたい。西部ブロック各府県DS連盟始め関係の皆様全てに感謝申し上げます。」



谷口実行委員長夫妻とオレクシー太田組



ウクライナ支援シャツ



支援金募金箱



左から谷口実行委員長、オレクシー・太田組、北牧PDステージマネージャー

ジュニア戦 スタンダード



小林才時・前田佳音組(長野県)



優勝

15歳と13歳の兄妹。ラテンが好き、スタンダードはボチボチですが踊っています。毎日コツコツ努力して頑張ります!



優勝

ジュニア戦 ラテン



岡内唯一・岡内暖羽組(大阪府)

キラ星み~つけた!

ジュニア戦、スタンダード優勝とラテン準優勝に輝く!

小林才時・前田佳音 組(長野県)

豊科高校と岡谷南高校の一年生同士、「塩尻DSC Jrアスリートクラブ」に所属、カップルを組んで3年、「身長差があるので、指先、足元まで意識して思い切って踊りました! 次の目標はユースチャンピオンです!」

地元紙「塩尻市民タイムズ」にも活躍振りが紹介されました。クラブ代表の岡田明義・祐子ご夫妻が自宅のフロアーでも指導、オレクシー グザー・太田史圭子組もコーチ。JDSFジュニア強化選手にも選ばれ、さらなる活躍が期待されます。



シニアI スタンダード選手権



準優勝

小林潤一・小林麻衣組(富山県)



優勝

野口雄一郎・奥野亮子組(東京都)

A級戦 スタンダード



優勝

太田歩生・松本京佳組(北海道)



準優勝

滝川貴之・滝川綾乃組(愛知県)



B級戦 スタンダード



大橋章平・斎藤容子組(京都府)



優勝



優勝

南山雄大・安原ゆめる組(長野県)



B級戦 ラテン



つなげています
スポーツへの想い

スポーツくじの収益は、
日本のスポーツを育てるために
使われています。



www.toto-dream.com www.toto-growing.com 19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター

ダンス・ダンス・ダンス
第104号(Summer)
令和4年8月発行

● 発行人／山田 淳(公益社団法人日本ダンススポーツ連盟専務理事)
 ● 編集人／神宮周二(公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部相談役)
 ● 企画／公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部
 ● 発行所／公益社団法人日本ダンススポーツ連盟
 〒135-0063 東京都江東区有明3-4-2 有明センタービル1階 TEL.03-6457-1850 FAX.03-6457-1857
 http://www.jdsf.or.jp

◎本誌の記事・写真の無断転載を禁じます。